

乳幼児に有害なテレビ

さて、父という漢字が、教という字と関係があることを述べましたが、興味あることには、母という漢字は、育という字に関係があるのです。

母という字は、女という字の古い字形である“母”に、乳房を表わした“𠂔”を加えて作られた字です。つまり、乳房から出る乳で子供を育てる母親の姿を象かたどった字です。

育という字は、生れ出る赤ちゃんの形を表わした𠂔(子を逆さにした形)に食べ物(肉)を与えて養い育てることを表わしたものです。育をイクと発音することは、肉[niku]がこれを表わしています。

教は父親の仕事であり、育は母親の仕事であることが、漢字の成り立ちに実によく表われています。

ところで、母の発音のボは、慕という言葉に由来する、と言われて 있습니다。だから、母とは、乳児を自分の乳房の乳で育てる人であり、従って、乳児に最も“慕”われる人でなければなりません。

しかし、今の母親は、自分の乳房の乳で育てることをせず、牛乳やミルクで間に介わせています。だから、今の乳児は、あとを慕って泣く

ことが少なくなりました。これでは、“母”ではありません。

ところが、母親のあとを慕って泣かなくなった乳児を、独立心が強くて良いことのように考えがちですが、これはとんでもない見当違いです。

乳児は、出来る限り母親の胸に抱かれて、乳房を吸い、もて遊び、心臓の鼓動を聞き、あやしの言葉を聞くことが、心身共に健全な子どもに育つのに大層有益なことなのです。

泣いている幼児の耳元に、母親の心臓の鼓動を録音したものを置いて聞かせますと泣き止むが、幼児の鼓動の録音では決して泣き止まない、という実験があります。母親を慕うのは乳児の本性であって、母親がいなくなればこれを求めて泣き、母親に抱かれて、その肉声を聞き、胸の鼓動を聞けば泣き止む、そういう日常の行動の中で、乳児は外界の刺激に敏感に反応する能力を育てていくのですから、ひとり遊びする幼児に対しては、特別な配慮をしないと、そういう能力が育たず、従って心身共に健全な子どもには育ちません。

また、乳幼児は泣くことで発声器官も肺臓の機能も発達していくのですから、母を慕って泣くことを全くしない乳幼児というのは問題であ

って、喜ぶべきことではありません。

生まれたばかりのチンパンジーの赤ちゃんを、生まれたばかりのわが子と一緒に育てたアメリカの女流心理学者があります。両者を分け隔てなく育てましたが、人間の赤ちゃんは言葉を覚え、これを使うようになりましたが、チンパンジーはついに覚えませんでした。

人間の赤ちゃんは、言葉を覚えるまでは、チンパンジーの赤ちゃんほど賢くなかったそうで、言葉を覚えるようになって、急速に知能が発達したということです。つまり、言葉が人間の知能を発達させる最大の要因だという証拠で、それは今ではだれも異論のないところです。

ところが、同じ人間の声でも、テレビから出る人間の声は、乳児にとっては実に有害であることがわかりました。このごろ、自閉症的病状のある幼児が多くなったことは、全国の幼稚園や保育園の均しく認めるところです。自閉症児は、母親の呼びかけにも応じません。全く自分だけの城に閉じこもり、名前を呼ばれても返事をしないし、声の方に目も向けません。そのため、言語の習得が遅れ、知能の発達が進まなくなってしまいます。

その上、社会性が全く発達しませんから、最後は廃人同様になっ

てしまう、恐るべき病気です。軽いうちは、テレビを追放しただけで直ったという実例が少なくありませんが、これが亢進しますと、なかなか直しにくい難病です。

人間の言葉とは、心と心とを結びつけるものです。だから、赤ちゃんに言葉をかける時は、赤ちゃんの目を見つめ、愛情をこめて語りかけることが大切です。赤ちゃんも、語りかける人の目と口を見てこれを受け取ります。

同じ言葉をくり返しくり返し語りかけることが大切です。反復によって、言葉と口の形との間に関係のあることを理解し、その口の形をまねて、その言葉を発するようになるからです。この行為ほど赤ちゃんの知能を発達させる行為は他にありません。

しかし、テレビから出る言葉は、一方通行であり、幼児の心を見無視しています。幼児の目を見て語りかけてくるものでもなく、また幼児の語りかけに答えてくれるものでもありません。そういうテレビを相手に育った幼児が、何を語りかけても返答しない子になるのは当然で、実に恐ろしいことです。